解題及び原作者奥書

私の故郷岡崎の近くに、蒲郡といふ海岸の避暑地があります。去年の夏そこにゐた時の事です。土地のものがしきりにそのすぐ隣の濱の〇〇山へ遊びに行つて來いとすゝめるのです。「あそこはすつかりよくなりましたよ」つまりここと同じやうな別荘地にするつもりで村の衆が骨を折つてるんです。貴方が此前いらした時分にア何もないたゞの山だつたあそこをすつかり公園にしましたよ。そしてその上には〇〇大將の銅像が出來ましただ。立派なもんですよ。」つまりさうして先年まで無名の村はづれであつた山は、〇〇公園とか〇〇山とか名づけられたわけです。私はすゝめられるまゝにある夕方舟を出して遊び半分に行く事にしました。するとその山は以前よく月夜など散歩した時分とはまるで違つて、道が出來、鐵條網のやうなトゲトゲの柵が出來、道々の木立には「草木を愛するものは」とか「最上の愛は」とかいふやうな、仁丹の廣告によくある樣な文句の木札がその邊の木に丁度落書をしたやうにぶらさげられてゐ、その下には一々△△村青年會といかめしく書かれてゐるのです。そして最後に登りつめたところには、成程明治の軍神といふやうな事をいはれてゐる〇〇大將だといふ一丈餘の大きな銅像が立つてゐるのです。しかしそれはコピンガーのいふとほり、花崗岩で出來てゐるのです。一體あの邊はいい花崗岩が出るので、多數の大きい石屋があつて、燈籠とか石

地藏とかをいつも作つてゐるのです。御影石のその「銅像」も勿論、きつと石地藏を作る事の餘程上手な名工が彫んだものらしく、どうせ建てるのなれば何故一そ石地藏にしなかつたらうと惜まれるやうな胸の冴えを見せてゐる石の銅像なのです。

私はその時ふつと思ひ出したのが、可哀想な愛蘭土のコピンガーやマラチの事でした。始めてグレゴリイ夫人の「イメーヂ」を讀んだ時にはあまり荒唐無稽だといふ感がしたのです。しかしこの〇〇大將の銅像を見た時、マラチやコピンガーがもし日本へ生れれば仕合せだつたものをとつくづく同情したのです。或はもしマラチやコピンガーを、蒲郡でなくても須田町へ連れて來ても、彼等は日本を「愛蘭土より餘程いい國だ」と思ふかも知れません。少くともグレゴリイ夫人の突飛な喜劇「銅像」を始めて讀んだ時は、「愛蘭土ならどうかしらんが日本にはかうまで氣狂じみた事はない、これだけは外國人の我々には一寸同意しかねる」と一時考へた私自身が、愛蘭土どころか、愛蘭土でさへ不成功だつた蒲郡で石の銅像を見た時、世間の方がはるかにグレゴリイ夫人の喜劇よりも荒唐無稽なのを思つてをかしかつた。

グレゴリイ夫人のこの作、The Image に對して「銅像」といふ飛び離れた譯名も偶然、丁度マラチの板つ切れのやうに思ひがけぬこの〇〇山に登つた經驗から私の手に入つたわけです。The Image といふ字は、本文には勿論何囘となく出て來るし、それが題名ではあるし、おまけに原作最初の頁には、

To my nephews Hugh Lane and John

銅　像

といふデヂケイトの文句中にあるので、さう普通の字の樣にその場その場にいいやうな變化した譯字を使つて行くのも本意でないのでいろいろ苦心しました。結句、「現想」「偶像」「肖像」「心象」「形象」「まぼろし」等の意味だが、原作になぞらへて、本文中の譯と題名とを一致させると、中々見つからない。殊にこの中のどの一つだつて、コピンガーたちのやうな方言ばかり使ふ土百姓の口に出させても少しの生硬も感じないといふ言葉はこの中に一つもない。その時、ふつと思ひ出したのが蒲郡の「花崗岩の銅像」の事でした。そしてこの「石で造つた銅像」といふ云ひ方がいかにも百姓らしい愉快な間違だし、本文の中にも一しきり諸君が、「銅像」ちうものは、鐵で作るとか石で作るとか石膏がええなど論じてゐるから、そのまゝこの「銅像」といふ譯語を故意と使ふ事にしました。

本卷に集めた中で、この三幕物の譯は一番自信がない、始め今少し小册なものにして、一幕物ばかり集める豫定だつたのを途中で俄かに一つ三幕物を入れる事にしたし、しかも半分程譯した頃、俄かに雜誌を出すといふ下らない話にうつかりと乘つてそのため一時譯するのを中止したり、その他に私一個の感情的な事情などが出來て、とかく最後に一つ殘つたこの戲曲の飜譯には心を集中するのを妨げられてばかりゐた。が間もなく、さんざ惱まされた揚句、雜誌の計畫一時中止となつて、その一つの原因は取除かれたが、今一つの感情的な理由は今のところ當分どうする事も出來ぬらしい。今一度ゆつくり研究し直してから發表したく思ふけれど、それは今の氣持の全く變る時を待たねばならぬ、そしてそれはいつの事だか、恐らくはかなり先の遠い事と思ふ。だからとにかく今はこのまゝにしてイエーツ張りで、假に發表しておく。そしてもし大方の諸君にして小生の淺學を御氣づきの場合は御教示が願ひたい。幸にして版を重ねる時があつたらその時は、もう一度譯文も、今少し生硬なところを直すつもりだから。

しかし私はこの戲曲には非常に興味をもつてゐる。作そのものの味としても、亦尊敬するグレゴリイ夫人の作品を研究する上からも。

この作は一九〇九年初演されたもので、それまでには夫人は、「時のひろまり」(一九〇四)以來八篇の農民喜劇を發表してゐる。しかもいづれもみな一幕物で、そして夫人の名は、少くも小品喜劇の作者としては玄人からも無双と許され、一般見物からは無上の人氣を博した。そして評論界では、一部夫人を味方する人々は、夫人の一幕物の力量に對して愈々無限なのに驚歎を深めてゐるのに、一方では、そろそろ、夫人の一真喜劇ももう種がつきたのか、いくらか類型的になつた嫌ひがあるといふやうな毒も出て、問題になりかけてゐる當時の事であつた。一九〇九年思ひがけぬ三幕ものの脚本が不意に發表されたのである。この作が各方面の世評を集中し得たのは固より當然の事だ。そして一部からは早くも、この盛名ある小品喜劇作家の一轉機を劃するものだなどいふ聲も出て、盛んに囃し立てた。

新三幕物についても、やつぱりいつもの通り一般の愛顧士人の見物たちは喜んだに相違ない。識譯者にと

つては、從來の作よりも更に愈々至難の度を増すのみの夫人の奇怪極るキルターニュースの方言も、英語としては誠に一々噴飯に堪へぬ滑稽である。また緯となり經となつて、何でもないテーマを三幕にも運んで行く間に出てくる無數の小さいモチフの數にはみな、異國人には通じにくいいろいろなものを參考してやつとその聯想によつて頷かせると思ふけれど、それだけに愛蘭土側有の挿話をもち、個有の感情や聯想に富んでゐるのであるから、それが次々と限りなく進行し開展して行く筋は、彼等いろいろな Ego 共を如何に喜ばしたかは想像するに難くない。

併し一部からは又、「夫人は終に長篇戯曲の作家ではない。夫人のあのほのかなテーマなりモーティヴなりは、一幕物として比類ないだけに、到底それに三幕を與へるは過重たるを免れぬ」といふ聲も起つた。

しかし整然と、がつしりした骨組をもつた三幕物なら他に求めてその人を得られる。何等の理窟も機構もなくして三幕にしてゐる所に、夫人の三幕物たる特色は十分ある。そしてかうしたモーティヴで相當の効果を收めて三幕までに運び得てゐるのは、夫人のかうした方面、傾向に於て持つてゐる力量の證據である。私は夫人を「長篇物の作家にあらず」と斷定するよりは寧ろ愈々夫人の「喜劇作者として、又かういふ輕いモーティヴの扱ひ手」としての力量に感心するものだ。

○コランキラ樣(C. Inmchille)——佐藤清氏著「愛蘭文學研究」に要を得た説明があるから引用させて頂く。

「愛蘭土の三十聖徒の一。ゲール族宗教史中、聖パトリックと殆んど同一水平線上に立つ人、第六世紀に於ける最も顯著なる傳道者、詩人、政治家、隱者、及び學院の創始者は聖コランキラである。愛蘭民族の想像力は實に彼一人の身に集まつた觀がある。彼は聖パトリックの如く外國人でもなく、聖ブリヂットの如く奴隷でもなく、愛蘭土民族最高の血統の出であるからである。

彼は五二一年、十二月七日、ドネゴール(Donegal)のガアタン(Gartan)に生れた。聖パトリックの死後二十九年、聖ブリヂットの死を去る四年前である。當時の愛蘭土は彼の伯父で、彼の母はカウヒーア・モア(Cathir Mor)王家の直系であつた。(中略)彼は愛蘭で活動を繼續し、教會、傳院、學校を建て、又料理、耕夫監督、教會事務又は世俗の事務をも缺掌した。「一日のうち、一時間として祈禱、讀書、書きもの、又は何か仕事をしない時はなかつた」此時彼は已に四十二歲で、體力精神力共に成熟し、自制の人ではなかつたが、性格は烈しく身體は見事で愛蘭中彼に匹敵すべき名聲を博したものはなかつた。すべての記錄を綜合してみると、彼は熱烈な感情家で、かうした性情から生ずる得失を共に備へてゐたらしい。聖ジエロームの最初の飜譯にかかる詩篇の事から、彼は軍を起した。が捉はれて五九三年、愛するデリ(Derry)を去つた。愛蘭を去る事は彼にとり大いなる悲しみであつた。それはやがて心情の破滅であり、死であつた。(中略)彼は、故國を悲しみ慰めを拒絶する追放者ゴール民族の最初の例である。かくして彼は追放者としての愛蘭土民族の運命と、性格とを代表する、理想的典型となつたのである。荒涼を極むる彼の誕生地ガアタンにある旗は、敬虔なる巡禮の手足のために擦り切れて居る。「永久にドネゴールを去らんとする憐れむべき移民らはデリを去る前

夜、其族の上に一夜を明すのである。コランキラ自身が追放者であつたから彼の誕生地に眠つたなれば、追放者の悲しみをば輕い心を以つて忍び得るよすがにもならうかと思ふからである。」後年幾百萬となく國を追はれた多くの愛蘭の追放者は、彼に於てその模範を見出すのである。彼は Deoraidhe gan sgith gan sos, Mc anaid a dter's a nduthchas（心やすみなくさまよひ、祖國に憧るる滅びたる追放者）の典型である。（以下略）

○コンノート地方及びムンスター地方。

愛蘭土三十二郡は、古來、四つの地方にわけられてゐる。即ち、北部 Ulster 南部 Munster 中央東海岸 Leinster 中央西海岸 Connacht である。此の戲曲の世界はガルウエイ郡（Galway）の Druim-na-Cuan といふ岬だが、私の持つてゐる地圖ではどうも Druim-na-Cuan といふ岬が明瞭でない。「ケリイの衆の船」と篇中屢々出るケリイは、愛蘭土西南端の郡でガルウエイとはクレア郡を一つへだてゐる。又篇中ブライアンが他の連中との會話の中には常にこのムンスターとコンノートの土地びいきの爭が出る。因に、シヤノン河は愛蘭土中部の湖の間を縫つて流れてゐる第一の大河。コンネマラはガルウエイの郡の海岸一帶の總稱。

○オウコンネル

（佐藤氏著七二頁）一八二八年彼はクレア郡選出議員として選擧されたが、議會から舊教徒を排除するために作られた誓約をなさなかつたので、英愛兩國に大騷動が起り、其結果一八二九年舊教徒解除法案の通過を見るに至つて初めて彼は議會に列席した。英國で愛蘭獨立運動を促進するために立憲的騷擾を行ひ偉大な成功を收めたものは彼を以つて嚆矢とする。此法案は僧侶以外すべての舊教徒に下院被選擧權及び選擧權を與へ、又上院に於ても同樣の權利を與へたものである。舊教徒解放に成功した彼は、英愛合併の廢止を實行せむとして一八四三「廢止協會」を設立し、身を以つて之に當つたが事志と違ひ、彼の志も水泡に歸して、彼は牢獄に投ぜられ、後、赦されて羅馬に赴く途中、一八四七年五月十五日ゼノアで死んだ。」

佐藤氏の著書は、なほこの文の次に斯う述べてゐる「オ・コネルの死んだ時、實に絶望といふより他なかつた、一八四五年から三年間の馬鈴薯の不作は、饑餓と死とを以つて全國を荒廢の極に陷れた。餓死するもの幾千、海を起えて米國に渡るもの幾千、かくて飢饉前、八百萬人の人口を有せし愛蘭は、六百萬人に減少した。」この事實は、本劇中、盛んにメリケンを憧れてゐるミセス・コビンガーの科白、かつてメリケンにゐたといふホスチイ、又、「この村では、若いものは皆外國へ行つてゐる」と云ふコビンガーの言葉などのある所以である。又、「ヒアシンスハルベイ」中、バアトレイが米國を屢々繰返すのも同じ理由である。

○パアネル（Parnell）——ミセス・コビンガーが云ひ出してその亭主やコステロたちがオウコンネルを主張したに對して、ブライアン・ホスチイが主張したこのパアネルといふのは、一八七五年新議員として立ち一八九一年十月六日その死まで、英國下院に於て僅少の同志を率ゐて母國愛蘭自治のため活動し、英國議會の心臓を寒からしめた政治家である。オウコンネルが十九世紀初頭の愛蘭土の指導者であつたに對して彼は十九世紀後期二十五年間の指導者であつた。彼が議會に於て用ひたのは頗る奇怪な議事妨害政策で、この方法によ

つて時には同志三四人を以つて全議會を全く行き惱ます事に成功した。極めて兒戯的だが、適法な野次の一種で流石の英國人もどうする事も出來ず三四の愛蘭議員のなすまゝに議事を進める事が出來なかつたのである。彼の二十五年間の政治家的生涯はつねにこの方法によつたのである。そして名宰相グラッドストーンと對應しつゝその土地法が制定され、グ氏第一次自治法案が提出された。一度は彼はキルメナアムの牢獄に投ぜられたけれども元來グ氏と彼とは兩々相許してゐる點もあつた。彼の態度は、決して暴力に訴へようとするものではなかつた。その事が最後に彼の失墜を來たした。愛蘭土の民衆はもつと過激なる要求を持つてゐたから、一議會に五百囘以上登壇した彼は極めて淋しい失意の中に死んだ。しかし會葬者は一萬人を超したと云はれる。そしてオウコンネルの墓と相並んで、又多數の同志や革命家の墓と並んでグラスネビンに彼の墓は築かれた。

これらのことは、下田將美氏の折著「愛蘭革命史」に詳細に報ぜられてゐるから、私はここには詳するにとどめる。

○九十八年の人――ホスチイの會話にいふ「九十八年の人」といふのは、一七九八年の暴動をいふのであらう。一七六一年頃から The Peepof Day The Peep of Day, The Defender, The white Boys, The Oak boys, Hearts of Steel 等、イエツとグレゴリイ夫人の合作「星から來た一角獸」などに出て來るやうな隱謀團や祕密結社が出來始めて主として小作人對地主の關係及び新教舊教の宗教關係から至る所で革命が起つて爾來三十年それが引つづいた。そこで新教徒の方も團體となつて所謂オレンヂ協會をなし、今日に至る緯色と綠との對立はこの一七九八に出來、全國的な大暴動となつた。

また、コステロがそれに對して「九十八年の人ではあるまい、四十八年の人だらう」といつてゐるが、この四十八年の人といふのは一八四八年のミツシエルの革命を指してゐる。ミツシエルは機關紙「ネ！ション」によつて極左黨の青年愛蘭黨を指導し所謂主戰黨の首領となつて活動した。それが一八四八年末だ革命の熟さぬ中捕へられて裁判の結果バアマダに移される事になつた、そこでミツシエル一味の青年黨は彼を救はんとして蜂起した。已に主戰黨首領なる彼がこの機を逸す筈はない。今こそ革命の秋が來たと强張した。が一部の穏和黨が躊躇してゐた。そのためミツシエルは捕へられて追放される事になつた。「今追はれるのは自分一人だ。しかし石川や濱の眞砂は……と云つたかどうだかしらぬが、私の歩いた道を逐ふものはこれで絶えはすまい。John Martin や Meagher もきつと私の歩いた道を追ふであらう」と云つた。「友よ、私もある、私もその一人だ。私の名も數へてくれ」と四方から叫ぶ聲に包まれながら法廷を退き、軍艦に移されて、彼は故國を追放された。續いて、青年黨の頭立つたものは、かくて死し、かくて追放され、またかくて脱逃するものが引きつづいた。四八年の革命は、かくて破られた。コステロ君の云ふのは、この革命の時の人々のことであらう。

次に、作者グレゴリイ夫人は一九一〇年本戯曲の第一版に次の奥書を添へてゐる。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

某新聞記者に――

「イメージ」がアベイ座で上演された時、私はプログラムに、最初この劇の題にしようかと考へてゐた "Secretum meum Mihi" （己れに對する己れの祕密）といふ句を添へました。ところが貴方の新聞の御說でみると、貴方始め二三の方々は、「自分がかくしておかうとしてゐる祕密といふのは、とりもなほさず作者の祕密だ」といふ風にお考へになつたやうですね。それについては私は、たしかこの劇の題役中の科白として、たゞ heart-secret といふ以上の字を使用してはゐないのですけれど。

田舍の百姓家などに、今でもよく傳へられてゐる美しい昔噺の中に次のやうな話があるぢやありませんか。一人の美しい女の人がありました。その人をその國の王子 樣が戀して、王子は遂にその人を追つてある花園へ行く。そして二人はその花園で愛し合ひ、そして幸福な戀の日を送る。女は王子樣に一つの條件を出す。「王子よ。貴方はどんな事があつても私をお讃めになつてはなりませんし、またどんな事でも、私の事を口に出して仰しやつてはなりません。」といひました。しかし或る日、自分の側を通つて行く彼女の美しさに打たれた王子は、ついそこにゐた花守に向つて云つたのです。「花守よ、ねえ。此世に一人だつて私の戀人のやうに美しい方はゐないだらう。」「ゐらつしやいません。」花守は答へて云つた。「そして貴方はもう一日でもあの方がなくちや生きていらつしやる事は出來んのです。」と。すると、それがすつかり本當になつてしまふのです。王子がさうして戀人の事を、日常普通の言葉として口に出したために、その日から王子の戀人はなくなつてしまひました。

丁度これと同じ運命が私のこの芝居の中の人たちにも與へられるのです。ブライアン・ホスチイのイメージは彼の鄕里であつて彼が熱狂的に愛してゐる「コンノート地方」です。しかし彼がそれを誇として他の人人に自慢していふと、その人々は、その境界の堀の外から冷たい目でコンノートをのぞいて見て、たゞ茨や薊が生えた荒地にすぎぬではないかと云はれてしまふのです。ミセス・コビンガーは、「アメリカといふ國」へ行けば人生の悅樂の極頂を享受し得る所だと思つてゐるのです。しかしその希望は、かつてアメリカにゐた事があり、その醜惡さだけを見て來た人のお笑草になつてすつかり暗くされてしまふのです。コステロは「人間世界をすべて平和」にと考へてゐるのですが、しかし彼がその平和といふ言葉を口にする時に人々はすぐにも戰はうとしてゐるのです。トーマス・コビンガーは誰か偉い人のためにすばらしい「記念碑」を造りたいといふ事を夢みてる、ベギイ婆さんは、早くに死に別れて長い年月の立つ中にいつかしら自分の頭の中ですつかり美化した人の事を夢想してゐる、マラチは現世を超越した「上の世界」の夢を見てゐるのですが、それらのいづれものイメージは皆、恰も蠟燭の焰の中から出る心のやうなもので現實に一寸でも觸れれば忽ちくづれ落ちて、俗世の空氣にすぐ消されてしまふのです。そしてその幻想が華やかなれ

は華やかな程その實現は難かしく、やがて地上の影のあとを、見る者は目をとめてそして滿足するやうになりませう。

貴方はきつと御自分の新聞が、愛蘭土人の手になつた作に對する尊敬を回復した事に誇りを感じてゐらつしやるでせう。しかし十年前私が發表した一小册子中に「新しき愛蘭は起れり、そは舊昔を愛するの故を以て起りしものにして、舊昔を破壞せんとするものにあらず」と書いた當年、貴方はたゞそれだけの他にお考にならなかつただらうか。つまり貴方だつてかつてあの時分には一度は The Image-maker だつたといふ事になるではありませんか。我々の幹部も此頃はかなり喝采をうけるやうになりました。ダブリンに於てさへも。しかし、仕事を始めた最初頃考へてゐた事に比較してみれば、どうしてどうして前途尙遙遠たるものです。私がこの戲曲をデヂケイトした二人の甥も同樣な次第です。一人は協會に加はり土地所有權問題の平和な友誼的な改良に努力して隨分働きました。もう一人の方は、ダブリンをして、現代佛蘭西派の繪畫にも等しい藝術家、學者、批評家等、すべての人のオリエントとしました。しかし尙、私が考へますに、一族あげようとするものはどうせ何度となく失敗し倒されるのだから、二人の甥にそれに對する勇氣をつけようとしたり、限りなく强い忍耐心を與へようと考へた事なども、とても實現するはずのない夢だつたのです。しかし、たとへ自分の祕密を群集に知らすまい爲めにでも人がもし心に浮んで來る弦を少しも口外しなかつたら、肉身の重荷に堪へかねて世界は暗く苦しくなつてしまふであらう。だから私は The Image-maker たちには、「神よ彼等を助け給へ」と衷心から思ひますよ。何故つて我々はみんな、かういふ人たちの夢の輝かしい飛片のおかげで生きてゐるのではないでせうか。

私はかういふ申譯けを、「銅像」の初演の時書くべきであつたか否か。又はそんな事は今も書くべからざるものなのかどうか、私にはわかりません。つまり一言でいへば、貴方の仰しやる通り、「自分だけで喜劇のつもりでゐる。が誰一人喜劇だなんていふものか、皆にわかだと云つてるさ。グレゴリイ夫人もおめでたいさ。」……このおめでたい人が一番得なのでせう。

* * * * * *

私が感謝に堪へないのはエイ・イー氏です。氏は御自分の着想を、自分でおかきなさらないといふので私に讓つて下さつたのです。エイ・イー氏から頂戴したその筋といふのはこんな風のものでした。どういふわけであつたかは忘れましたが、たしか、なんでも或る田舍町に、ミカエル・マッカーシイ・ワードといふ人のために記念碑を作るのだといふので、その資金募集に骨折つて奔走してゐる人がゐる。やがて金は集る。ところが、いつの間にかその金を集めた人は消えてなくなり、たゞ、そのミカエル・マッカーシイ・ワードなんて人は、實際どこにもゐた人ではないといふ事がわかるといふのです。

私はこのテーマを初めは丁度、「尊のひろまり」や、「ジャックダウ」の時のやうに劇の本筋とせずたゞ挿話

として陰にまはして間接に取扱ふつもりでゐましたが、「銅像」では、その事件を直接に取扱ひ、幸か不幸か、とうとう三幕といふ長いものにしてしまひました。勿論私はこの作を、全然失敗の作だとも思ひませんが、さりとてまた、出來上つたものを見ると、これが決して最初の計企どほりのものだつたともいへません。

* * * * * *

この劇を書き上げてしまつた後の事でした。ゴートから來たといふ年寄つた一人の旅人がオウ・コンネルの事を私に話してくれました。「エニスではオウ・コンネル樣のために立派な記念碑が出來ましただよ。」と。「通の眞中の場所に出來てるです。オウ・コンネル樣はその上にお立ちなされて、一册の本を手に持つておいでなさります。この仕事は何でも貧乏な靴の親爺が考へ出しただといふ事です。わたしアある時彼をゴートで見ましただよ。その人アひよつとしたはずみで手に入つたと云つてオウ・コンネル樣の上着をもつてゐました。記念碑を立てようとしたのもたゞ彼なのでした。それで彼が金を集めたのです。さうするとそれを又反對するものもなかつたのです。」その人は話しました。それからやや過ぎてこの春、私がタラの山を見物に行つた時、その山上に石屋——それもたゞ何でもない田舍石屋の作つた、聖パトリックの立像があるといふ事を聞かされました。「もしその石屋が自分で考へ出して、自分で作らなければ恐らくは山上にこの立像は立たなかつたでせう。」だから別に、マラチノートンやコビンガーの野心だとて、他に先例がないといふ程突飛なものでもないわけです。

大正十三年二月五日印刷
大正十三年二月十日發行

（定價貳圓）

◀グレゴリイ夫人戯曲全集▶

飜譯者　近藤孝太郎

發行者　東京市牛込區矢來町三番地　佐藤義亮

發行所　東京市牛込區矢來町三番地　新潮社
電話牛込（代）八〇〇〇番　八八〇九番　八八〇七番　八八〇六番

振替（東京）一七四二番

印刷所　東京市小石川區西江戸川町　富士印刷株式會社
電話小石川五九二番

印刷者　佐々木俊一

松村みね子氏譯（『グレゴリイ夫人戯曲集』と同型同装）

■シング戯曲全集

第四版　四六判四百頁　定價貳圓　送料拾貳錢

愛蘭劇の代表的作家はグレゴリイと共に、シングであることは云ふ迄もない。我が新劇作界の覇者たる菊池寛氏を始め、シングに私淑せる人多く、シングの作は、直接間接に我劇壇を培うてゐる。『シング戯曲全集』は、語學の造詣と才藻の富贍と、加ふるに藝術的感覺の纖細とを以て、譯壇の最高に位置する松村夫人によつて公にされた。夫人は、夙に愛蘭文學に傾倒し、既に出した幾多の翻譯は、厨川白村博士の如き常に推賞して措かざるところである。シングの作、方言に富み、暗喩の意義深く、凡常翻譯家の遂に一指を染むる能はざるもの、此の譯者を得てはじめて、新しく剪りたる一枝の花の、色も匂ひもさながらの名譯となつた。まさに翻譯壇の一大至寶と云はなければならぬ。

■新潮社出版■

吉江喬松氏鑑選（佛文直接譯）

■現代佛蘭西文藝叢書

四六判布製紙　一冊壹圓四拾錢　郵送料一冊八錢

古き傳統の國佛蘭西は、同時に新らしい精神の發源地である。人類の文化は、最も美くしく此の國の土に花咲き、世界文藝の新潮は、亦常に此の國の岸に波打つ。今、現下佛蘭西の文壇を形づくりつゝある中心的作家の、代表的作品の粹を輯めて、この一つのシリイズとした。譯者は悉く我が國の少壯佛文學者である。時に當つて最も意義ある出版なることを信じ、敢へてこれを文藝愛好者にすゝめる所以である。

第一編　■狹き門　アンドレエ・ジイド作　山内義雄氏譯（新刊出來）

作者は現代佛文壇の重鎮、『狹き門』は最も廣く讀まれてゐる其の代表作であつて、エドモンド・ゴッスが口を極めて稱讃した。妹に戀を讓つて修道院で死んだ少女アリサの生涯を描いたもので、戀愛心理の解剖は深刻を極め、技巧の精妙は眞に無比、永井荷風氏が現代小説の範として推したのでもわからう。

第二編　■我が友の書　アナトオル・フランス作　小林龍雄氏譯（新刊出來）

作者が幼年時代を描けるもの、その最大の傑作の一つである。清澄にして色彩ある文體は、美くしき眞珠の光を見るが如く、加ふるに全篇に横溢せる詩味と聰明なる叡智と且つ婉曲なる皮肉と、溫和なる同情とは、何人をも思はず微笑せしめずには措かない。眞に現代佛文壇第一の美文家の作である。

續刊　■シャルル・ブラン・シャアル（フイリップ作　吉江喬松氏譯）　■ラマンチョオ（ロティ作　内田傳氏譯）

□飜譯書類□

ロマンロオラン	ジャン・クリストフ	豊島與志雄譯	全四冊	一冊貳圓五拾錢 送料一冊拾貳錢
トルストイ	戰爭と平和	昇曙夢 米川正夫譯	全四冊	一冊貳圓五拾錢 送料一冊拾貳錢
同	アンナ・カレニナ	原久一郎譯	全三冊	一冊貳圓參拾錢 送料一冊拾貳錢
ドストエフスキイ	カラマゾフの兄弟	米川正夫譯	全三冊	一冊壹圓八拾錢 送料一冊拾貳錢
同	罪と罰	中村白葉譯	全二冊	一冊壹圓八拾錢 送料一冊拾貳錢
ユーゴー	レ・ミゼラブル	豊島與志雄譯	全四冊	一冊貳圓 送料一冊拾貳錢
ルッソオ	懺悔錄	生田長江 大杉榮譯	全二冊	一冊壹圓五拾錢 送料一冊拾錢
ダンヌンツイオ	死の勝利	生田長江譯		定價壹圓五拾錢 送料拾錢
ゾラ	ナナ	宇高伸一譯		定價貳圓五拾錢 送料拾貳錢
ショウ	ショウ一幕物全集	市川又彥譯		定價貳圓五拾錢 送料拾貳錢
シング	シング戲曲全集	松村みね子譯		定價貳圓 送料拾貳錢

522
138

終